

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500835		
法人名	社会福祉法人 田尻福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームひだまり	ユニット名	
所在地	宮城県大崎市田尻大貫字境36-1		
自己評価作成日	平成23年 9月 7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年4月に公設民営で開設された我がホームは、「もう一つの我が家が家での喜びと安らぎのある生活～のんびり・ゆったり・私らしく～」を理念に掲げています。近隣には、小学校や幼稚園があり元気に登下校される子供達の姿を眺めたり、行事へのご招待をいただき見学するのが楽しみになっています。また、定期的なボランティアさんの訪問を職員も利用者も心待ちにしている、特にイベントがある時に力を発揮していただいています。行政との関係も良好な事から地域の方との関わりも区長さんや民生委員さんをはじめとたくさんの方からお力添えをいただいています。昨年度に始めて地域のお祭りに出演者として参加することができ、ピーアールも兼ねて謝意を表すことができました。そして、今回の震災時には、近隣の方々から食材や井戸水の提供、行政からは給水車の支援等をいただくことができ、

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは旧田尻町の桜の名所「加護坊山」に近く、道路向かいには台風15号で被災に遭った大貫小学校があり、小高い丘の上にある。開設して10年目を迎える1ユニットのホームである。隣にある大貫サービスセンターとは、渡り廊下でつながり一体となった運営が行われている。「誰もが安心して生活できる長寿・福祉社会の実現」を目指す、社会福祉法人「田尻福祉会」の一員として、認知症という障がいを持った高齢者が住み慣れた地域で安らぎと喜びのある、その人らしい生活が送れることを目指して、家庭的な暖かい支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ひだまり )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を素に、年度毎に見直しや確認(事業実績報告書)をし、新たな目標を立案し計画(事業計画書)し実践につなげている	法人の経営の理念、方針、目標に基づく、年度毎の各事業所(旧田尻町に6ヶ所)の運営方針が定められ、職員に共有され実践されている。入居者の誕生日に外食などで、職員が一日中付き合うユニークな施策もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(お祭りや運動会、廃品回収など)に参加し、ホームの行事に来ていただくことで、年々、より関係が深くなってきている。今回の震災時には、地域の皆様から差し入れやら協力をいただくことができた。	地域の一員としてのつきあいは、年々深まっている。北又自治振興会に加入し、夏祭りなどの行事や幼稚園、小学校などの運動会などに参加し、地域交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々の相談には、個別に対応している。今年度は、認知症キャラバンメイト研修を受けた職員が、行政と共に活動することができた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの質の向上や地域密着に向けての取組みの一つとして、計画的に開催し、年6回以上を目標に取り組んでいる	年間開催回数、構成メンバーなど、目標は会議録や年間スケジュール表で確認できる。会議内容は、今後さらに参加者による双方向的な議論が交わされるよう取り組んでいただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	公設民営での開設、大崎市の指定管理を受けていることから協力や相談しやすい関係が出来ている。決算報告も法人からされている	旧田尻町時代から、町による東北大学の健康全戸調査が実施され、行政との連携は深い。勉強会、事例検討会なども盛んであり、サポーター研修にも講師派遣をして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束とリスクマネジメントとの関係性が理解できるように、内部研修を開催し、取り組んでいる	過去にベッド柵の問題で懸案があったが、現在は無い。身体拘束による入居者が受けるべき弊害は、新人研修の段階から徹底して教えている。また、過去1年間、所在不明になった入居者の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を開催しながら、各職員がどのような時に虐待と感じるか、不安に思っていることはないか話しあうようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて理解を深める努力をしている。また、必要に応じて関係機関に相談するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、利用契約書や重要事項説明書での説明、ご家族が不安や疑問点が解消できるような説明を心掛けている(理念、取組、入所後生活の様子等)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価結果を運営推進会議等で取り上げ、意見や要望等を聞く機会を設け、運営に反映させている。大崎市のあんしん介護相談員の受け入れを実施し、意見を伺っている	家族には、面会に来た時を中心に、入居者の様子や最近の行事などお知らせし、意見や要望を聞いている。最近、発電機の設置で家族からお褒めの言葉を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画の途中経過を各職員から出してもらい、修正や変更できることは、話し合いをしながらすすめている。また、法人全体で、改善提案制度を設けている	代表者とは、年2回面接し意見を聞く機会がある。考課とも関係するがステップアップシートを使用し、自己評価の提出がある。業務改善のための福祉サービスの品質管理活動も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度(年2回)を活用し、自己評価から全体評価で個人の実績や努力を評価しながら給与システムに反映されるようになっている。また、昇任考査試験での正職員への昇進(パート、臨時、嘱託)制度もある(年1回)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた外部研修の受講をしながら、内部研修の場も設けている。日々の業務中でも必要に応じてアドバイスできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県GH協会へ加入している。交換研修やGH協主催の研修に参加しながら情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前には、必ず本人にお会いして心身の状態や思いを汲み取るようにしている。わからないところは、家族からの情報をもとに確認しながら、安心できる場所と実感してもらえるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過を含め、苦勞した事やサービスの利用状況を確認しながら、これからの要望や希望に添えるように話し合いをすすめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームだけで抱え込むのではなく、何が必要なのか共に考えて提案していく。出来る限り柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から教えていただくという姿勢でいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人・知人が遊びにきて下さる。また、ドライブすることで、昔の思い出がよみがえっている。	利用者と家族や大切な方との、より良い関係を継続させようとの運営方針のもと、家族など周りの理解を得ながら、積極的に友人、知人や馴染みの場との交流を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を共有し、職員が臨機応変に対応できるようにし、日々穏やかな気分で過ごしてもらえるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方へも、遊びに行ったり、様子を聞いたりしながら情報を得ている。家族の情報も得ながら、必要に応じて支援していく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話から把握に努めている。困難な場合は、以前の生活状況や性格を考え予測することからは始めている	食事に対する要望や思いや暮らしの希望など把握して支援している。馴染みの環境づくりもホームの見学やお茶飲みなど、早く馴染むことができるように工夫して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、本人や家族、関係者から聴き取るようにしている。さらに利用後も折に触れ、生活の様子を伺うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人毎の生活リズムを捉えると共に、出来ない事よりも出来る事に注目しながら、日々の体調を考慮し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き事業所以外の関係者の意見を含め、職員の気づきが介護計画に反映している	ケアプランの確認、気付き、入居者本位のケアの実践、相談への対応、家族との信頼関係など、入居者との関わりを重視して取り組み、モニタリングしながら現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2種類のシートを使い記録している。職員の細やかな気づきが、個別ケアに活かせるように努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に添った柔軟な対応を心掛けている。同法人でも多様なサービスを展開している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区長や民生委員からの協力もいただいている。また、地域の「ボランティア友の会」所属のボランティアが定期的に来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院には、職員が代行し付き添っていて、必要時には、家族の協力をもらっている	受診はほぼかかりつけ医で、訪問歯科も週1回受けている。家族が同行することも2ヶ月に1回程度ある。受診結果、助言内容は記録化され、職員に共有化されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医のいる診療所の看護師には、平日であれば直ぐに連絡を取り、指示を仰げる状態。また、隣接するデイサービスの看護師にも体調不良時等には協力をもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と連携し、情報提供が速やかに行えることと早期退院に向けた取り組みをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を文書で確認している。また、状況の変化に応じての話し合いもしている。更に事業所でできることを含め、同法人の特養を考慮しての話し合いができる環境にある。	急変時対応希望書で、家族の意向を確認しているが希望は少ない。介護度4以上が多くなっているので、法人内で相談している。現状看取りは困難とのことだが、方針を確立して前進するよう期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、2年に1回の救急法を受講し、消防署職員からのAEDの指導も受けている。ホームにもAEDを設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や地域との訓練を実施している。また、この地域、「北又自主防災組織」に組み入れてもらい、災害時には、協力をもらえるような体制ができている。	大震災を経て、ライフラインの確保を中心に、燃料、水、食材、衛生、電気などと緊急用簡易トイレ、紙オムツ、資金の確保、非常用発電機による防寒対策などの対策が確立されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内で、情報管理委員会もあり個人情報の取り扱いには、全職員が注意している	運営理念に基づく方針の第一に、個人の尊重、プライバシーの遵守、安心と尊厳のある生活の支援が掲げられ、実践されている。言葉遣い、挨拶も場(相手と状況)に応じた取り組みになるよう実行されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押し付ける事がないよう、複数の選択肢を提案して、それを利用者が自分で意志決定できる場面を作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、時間を区切った過ごし方をしてはいない。個人の体調に配慮しながらその日、その時の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に添った対応をしている。馴染みの美容院への外出支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、季節や好みに配慮しながら職員が、ローテーションを組みながら作成している。また、利用者の能力と気分に応じて準備や片付けをしている	食事は一緒に取っている。食事の時はテレビをつけず食事に集中している。カロリーや栄養のバランスにも気を遣い、担当を決め食事を作っ入居者全員が麦ご飯で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の水分量の把握を毎日している。食事は、注意が必要な方のみチェックしている。また、栄養や食に関する勉強会を法人の管理栄養士に講義してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけをしたり、義歯の洗浄をしている。現在、2名が歯科医院の口腔ケアを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況や皮膚状態を観察し、排泄のタイミングを考慮しながら、紙パンツから布パンツに変更したりしている。できるだけ布パンツを使用してもらうようにしている	個人のカや排泄パターン、習慣は把握されている。失禁の際もすみやかにに対応し、トイレ排泄ができるように支援している。夜間は尿とりパットの使用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に応じて便秘対策をしながら、便秘にならないように飲食物の工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴剤を使用したり、入りたい時間や一緒に入りたい利用者を聞きながら対応している	個々に合った入浴になるように努力している。寝つきの悪い方は夜間を中心に入浴している。入浴を拒む入居者もいるが、髪洗いやから始めるなど工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日ビデオ体操を日課としていて、適度に身体を動かす工夫をしている。寝入りの悪い方には、夜間入浴なども取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に服薬ファイルを作成し、誰でも見られるようにしている。また、服薬変更等は、記録や申し送りで確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でそれぞれに力を発揮してもらえようようにして、できそうな仕事はお願いしている。把握している趣味などで気分転換してもらえようようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気を考慮しながら支援している。誕生日を利用しながら、本人の希望を聞き対応している。また、ボランティアの協力を得ながら外出もしている	定期的に来るボランティアの協力も得て、近くの行楽地や買い物に出かけている。広報「かごぼう」や年間スケジュールで、4月から南方千本桜(名所の一つ)などの開催の様子が確認できる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額でも自己管理されている利用者もいる。また、回数は少ないが、好きな買い物をして使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族や兄弟と連絡が取れるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけなど利用者に手伝ってもらったり、季節に応じた飾りつけを工夫している。また、温度には特に注意を払っている	共用空間は広さが充分で開放感がある。行事の写真や格言などが貼り出され高齢者が過ごすのに相応しい。ホームの周りも畑や花畑があり快適な環境である。温度や湿度の管理も適切である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下にフリースペースがあり、部屋以外でも一人になりたい時や来客時の語らいの場にもなっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みのものをお持ちいただき、身体状況によっても使いやすいようにしている。新しい物は、自分のではないと言われる事を家族にも理解してもらっている	各居室のベッドは持ち込みもあり個性的である。時計、カレンダーは見易い場所に全室にある。お位牌などがある居室もあった。各居室とも清潔であり、ほっとする温かい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの視点に合わせ「何がわかりにくい」のかを考え、状況に合わせた環境を整備している		